

平成 29 年度秋季企画展

埋もれたお宝・伊井地区出土品展

— 玉造りを中心に —

あわら市郷土歴史資料館

あわら市伊井地区は、昭和 29 年の旧金津町との合併により廃止された旧坂井郡伊井村の村域にあたり、矢地・菅野・稲越・河原井手・池口・伊井・清間・桑原・古屋石塚からなっています。その多くが竹田川流域に属し、特にその左岸の発達した自然堤防上にあった畑地を大正時代以降の耕地整理で切り開き水田へ転じた際に多くの弥生時代を中心とした土器・石器などが発見され、古くから良く知られている地域です。

これら採集された土器・石器等は、『伊井村誌』などで紹介された他、関係者の努力もあり、地元伊井小学校で大切に受け継がれてきました。

その後、金津町により中部工業団地が造成され、工業地帯へと変わりつつありますが、それに伴う平成 2 年の伊井遺跡での発掘調査を契機として、調査が何度か行われ、資料の蓄積も進んでいます。本企画展では、関係者以外はなかなか見ることのできない伊井小学校所蔵資料を初め、伊井遺跡出土の玉造関係資料と比較するため、石川県加賀市の片山津玉造遺跡出土品も展示していますので、この機会に是非じっくりとご覧ください。

【伊井区】

石冠

石冠は、縄文時代の石器の一種で、実際に使用された道具か祭祀などに使用されたものか明らかではなく、その形状が冠に似ていることから名付けられました。その底部には窪みがあります。

図 1 の石冠は、『伊井村誌』によれば「耕地整理の際に伊井集落の南方から出土したもの」とされています。単独で発見されたこともあり、その時期は特定できませんが、出土が岐阜県飛騨地方や富山県・福井県にほぼ限定され、原形が動物に由来すると考えられている「老いねずみ形」といわれる石冠であることから縄文時代の後期～晩期頃のものと考えられます。



図 1 伊井地区表採石冠
(福井県立歴史博物館寄託)

伊井遺跡

伊井区にある代表的な遺跡が伊井遺跡です。この遺跡は、竹田川に高間川が合流する地点近くの自然堤防上に所在します。

平成 2 年 9 月から開始した第 1 次発掘調査により、調査区北西部で弥生時代後期～古墳時代初頭頃と思われる四本柱の方形竪穴住居跡 1 棟、南東部でほぼ円形の掘立柱建物跡 4 棟を確認しました。特に径約 6m の 1 号掘立柱建物跡は、大量の緑色凝灰岩の原石と剥片と共に、管玉の製作途中の角柱状未成品がまとまって出土しています。また、敲石や砥石等も出ており、耕作土除去の際には石鉤や玉錐までもが周辺で採取されており、玉造り工房跡と考えられています。

他に、土坑や柱穴跡と思われる小ピット、中世頃の 1m 四方の方形井戸 1 基も発見されています。今回展示している伊井遺跡の土器は、1 次調査出土のもので、前列に並ぶ右から 3 点の土器は、小型丸底壺、甕、

高坏であり、いずれも土坑 69 から一緒に出土した古墳時代初頭～前期頃の土師器です。

前列左端の装飾器台は、器台の上部に壺などを置いた状態を一体として再現した土器で、祭り時に使用された特殊な土器と考えられています。北陸南西部の弥生時代後期から古墳時代にかけての時期を代表する器種の一つです。この土器は、体部に涙滴状透かしと呼ばれる穴が互い違いに計 10 孔あり、体部の底にも円形の穴が 4 孔設けられているのが特徴で、弥生時代末から古墳時代初頭頃のものと考えられます。

後列の 3 点は、土坑 9 から一括で出土した器台、壺、鉢で、古墳時代初頭頃の土師器です。鉢は、底部穿孔されており、甑などの煮沸用具として使用されたと考えられています。

弥生土器・壺

この土器は、『伊井村誌』によると、昭和 26 年 10 月、伊井の俗称畠田に属する西側 5 字 8 番地から発見されたもので、横向きで土中にあつたため、鍬の刃先により土器の胴部に楕円形に欠損が生じたそうです。しかし、伊井小学校に保存されている弥生土器としては最も完全に近いものです。

須恵器・提瓶

この土器は、『伊井村誌』によると、大正 4 年伊井の耕地整理の際に採取されたもので、昭和 24 年 10 月に伊井の石冠とともに個人から伊井小学校に寄贈されたものと記載があります。須恵器は、それまでの弥生土器やその系譜を引く土師器とは異なり、野焼きではなく、古墳時代中期以降に大陸から伝わった窯を用いて焼かれた硬質な土器です。提瓶は、古墳から出ることが多い器種の一つで、扁平な円球形の体部に口頸部が付きます。肩部にある環状をした把手に紐を通して吊り下げ、いわば水筒のように液体を入れるのに使用されたと考えられています。把手は、環状からカギ形の突起状に退化していき、ボタン状となった後、最終的にはなくなると時期差を示すものとの説があり、これは古い形態のため古墳時代後半頃と思われる。

<展示品>

- ・石冠 1 点（伊井小学校所蔵・福井県立歴史博物館寄託中）
- ・伊井遺跡 1 次調査出土土器 7 点（あわら市教育委員会所蔵）
土師器（小型丸底壺 1、甕 1、高坏 1、装飾器台 1、器台 1、鉢 1、壺 1）
- ・弥生土器・壺 1 点（伊井小学校所蔵）
- ・須恵器・提瓶 1 点（伊井小学校所蔵）

【清間区】

打製石斧

この石斧は、三味線を弾く撥に形が似ていることから撥形打製石斧と呼ばれています。縄文時代以降の石器の一種であり、清間区で採集されました。石斧と呼ばれていますが、土掘り具と考えられています。

土師器・壺

この土器は、昭和 28 年 11 月に清間 10 字 7 番で採集されたもので、口縁部を欠くため、時期や形状は特定できないものの、古墳時代前期頃の土師器の壺と考えられます。

清間遺跡

清間遺跡は、西は伊井遺跡に接し、南は伊井小学校まで、東は清間集落を含む広い遺跡です。発掘調査は、平成 7 年の第 1 次調査から平成 26 年の第 6 次調査まで実施されています。1 次調査では、溝や土坑より弥生時代後期から古墳時代初頭頃を中心とする土器が多く見つかりました。土坑内に大量の土器が捨てられたような状態も見られました。しかし、中世頃の井戸は見つかりませんが、明らかな住居跡や玉造りの跡は発

見されていません。その後の調査でも土器は多く出ていますが、遺構は同様であり、大正時代以降の開発で元々の地形がかなり削られていることを示していると思われます。

中央の2点は、1次調査の際、溝中から発見された弥生土器で、2点共島根県や鳥取県、いわゆる山陰地方の影響を受けており、弥生時代後期頃のものと考えられます。

特に、図2の土器は、下部を欠くため確実ではありませんが、二重口縁で頸部に2孔1対のふたとじ穴があき、胴部がそろばん形をし、表面に渦文などの文様が見られることから本来は口縁部と良く似た有段を持つ台付装飾壺と思われます。

左端（図3）の弥生土器・装飾器台は、3次調査の際に発見されたもので、体部に涙滴状透かしが互い違いに8ヶ所あり、弥生時代末頃のものと思われる。

<展示品>

- ・撥形打製石斧1点（あわら市教育委員会保管）
- ・土師器・壺1点（伊井小学校所蔵）
- ・清間遺跡第1次調査、溝中出土土器2点（あわら市教育委員会所蔵）
弥生土器（器台1、台付装飾壺1）
- ・清間遺跡第3次調査出土土器1点（あわら市教育委員会所蔵）
弥生土器（装飾器台1）



図2 清間遺跡1次調査
溝出土・台付装飾壺



図3 清間遺跡3次調査
出土・装飾器台

稲越区

南稲越遺跡

この遺跡は、伊井遺跡西方の高間川対岸に位置しており、交差点拡幅工事に伴って1次調査が行われ、掘立柱建物跡2棟などが確認されました。

第2次調査は高間川水門改修の際に実施しました。調査では、弥生時代末期から古墳時代前期に属する土坑や堅穴状遺構が多く確認された他、古代に属する溝状遺構や井戸、時期不明なピット（柱穴跡）も検出されました。

図4は、土坑35上面の検出状況で、土器を残したまま、半分を掘り下げた時のものです。展示している5点の土器は、弥生時代末期に属しており、土坑中央に完全形やそれに近い土器が人為的に置かれたような状態となっていたことから、なんらかの祭祀的な行為が行われていた可能性も考えられます。



図4 南稲越遺跡2次調査
土坑35遺物検出状況

鉢形土器底部

この土器は、昭和37年に採集された古墳時代に属する土師器の鉢形土器で、底部が穿孔されていることから、甗の可能性もありますが、サイズの的には小さいため、ミニチュア土器の一種とも考えられます。

<展示品>

- ・南稲越遺跡第2次調査、土坑35出土土器5点（あわら市教育委員会所蔵）
弥生土器（長頸壺1、蓋形土器1、甗3）
- ・鉢形土器底部（穿孔あり）1点（伊井小学校所蔵）

【^{やち}矢地区】

竹田川北方の^{さんろく}矢地・菅野の山麓などには、^{こふんぐん}矢地古墳群や^{やちやま}菅野古墳群、^{はちおうじやま}八皇子山古墳群などの古墳群があります。しかし、各古墳群は、たびたび名称や^{わくぐ}枠組みに変更が加えられてきました。一例として現在、昭和公園がある場所は^{べんこう}菅野古墳群になっていますが、以前は「伊井塚山古墳」があり、古墳群の名前にもなっていました。これは、『伊井村誌』の記述や伊井小学校にある須恵器に同古墳付近出土と記されているものがあることからわかっていて、今回、その須恵器も展示しています。

伊井地区の古墳は、坪江地区の横山古墳群のような大古墳群は形成しませんが、竹田川対岸の自然堤防上の集落を造った集団の墓であったと考えられます。

^{くまがたにこふん}熊ヶ谷古墳

この古墳は、矢地集落北方の山麓部にあった古墳で、矢地古墳群中の1基に含まれますが、開発に伴い、発掘調査されずに破壊されたため、採集された大刀と土器類以外、古墳に関する詳しい記録は残っていません。また、後掲図5の『伊井村誌』の分布図内にある熊ヶ谷古墳と同一かどうかは未確認です。同一の場合、八皇子山より東北へ200m程にあった、横穴式石室を備えていたと考えられる古墳となります。

採集された大刀は全長121cmありますが、鉄製のためにさびが進行しており、今では展示することが出来なくなっています。他に出土した遺物は、須恵器の短頸壺大・小各1と坏身7、坏蓋8、甕片1、提瓶片1などがあります。これらは古墳時代後期にあたりますが、他に土師器片少々とともに、縄文土器片や石斧、越前焼など時期の異なるものも一緒に採集されています。

^{すえき たかつききやくぶへん}須恵器・高坏脚部片

この土器は、矢地地区で採集された須恵器の高坏脚部となります。脚部は透かしがないタイプのもので、坏部を欠損するため、蓋が付くか、無蓋のものかは特定できませんが、古墳時代後期のものです。

^{よこべ}須恵器・横瓶（伊井塚山古墳採集）

この古墳は、『伊井村誌』によると矢地集落の西方にあって、昭和8年10月の陸軍特別大演習の際、御野立所でした。伊井塚山古墳は、このあたりにあった古墳といわれていますが、古墳の内容については不明です。その後大演習を記念した大石碑が築かれましたが、その北方約2m離れたところより、昭和13年3月に児童が図画の写生の際、この土器を発見しています。古墳の副葬品と考えられ、古墳時代後期頃のものと思われる。また、一緒に高坏も出土したとありますが、現在は所在不明です。

須恵器・横瓶（竹田川採集）

この土器は、平成5年8月末に、伊井小学校児童らにより、竹田川の御迎橋からやや下流の矢地側寄りで川遊び中に川床より採集されたもので、須恵器横瓶の完形品です。液体を入れたか貯蔵用として使用されたと考えられ、古墳時代後期～飛鳥・奈良時代にかけてつくられています。

^{かがやき かめへん}加賀焼・甕片

この古墳は、『伊井村誌』では、「伊井塚山古墳」の「その北方には松林に被われた古来「ワンカシの伝説」を有する「ワンカシ」の大円墳がそびえている。この円墳は伊井村最大の古墳であって頂上には地蔵堂があり、茶臼山ともいわれている」とされていました。部分的ですが発掘調査を実施しましたが、古墳と確定できませんでした。出土遺物も弥生時代末の土器片と中世の加賀焼片で、展示の加賀焼は甕片で、頂部平坦面から見つかっています。体部に^{おういん}押印があり、菊花文に菱斜格子の組合せから石川県那谷エモンジャ古窯跡出土の押印と類似しているとされ、加賀焼Ⅱ期（13世紀前半）頃のものと考えられています。

<展示品>

- ・熊ヶ谷古墳採集土器 6 点（あわら市教育委員会保管）
須恵器（短頸壺 2、坏身 2、坏蓋 2）
- ・高坏脚部片 1 点（伊井小学校所蔵）
- ・伊井塚山古墳採集須恵器・横瓶 1 点（伊井小学校所蔵）
- ・竹田川採集須恵器・横瓶 1 点（あわら市教育委員会保管）
- ・矢地山 1 号墳出土、加賀焼甕片 1 点（あわら市教育委員会所蔵）

すがの 【菅野区】

土師器・高坏

この土器は、『伊井村誌』には、昭和 24 年 10 月頃、菅野地籍に属する竹田川の自然堤防上で、御迎橋附近の菅野と矢地の境界よりやや下流の河床に近い崖にて、当時伊井中学校在学の生徒が魚釣りの際にはほぼ完全な形で発見したものと記載があります。今では、残念ながら欠損が見られますが、古墳時代中頃のものと思われる。

かど やまこふんぐん 加戸（角）山古墳群

加戸山古墳群は、菅野区北西の小丘陵上に所在していた数基からなる古墳群と思われませんが、残念なことに現在は丘陵ごと消滅しています。大正 9（1920）年の報告には七個の塚があって、しばしば発掘されそのたびに遺物が発見されたとの記述があります。

大正 9 年に刊行された『福井県史蹟調査報告』には「加戸山古墳」について、明治 15 年の発掘で「金属環(主として銀環)六個破片二個勾玉二個他に祝部土器多数あり」「現今

東京帝室博物館に所蔵」とも記載されてもいました。この明治発見の遺物は、今も東京国立博物館に収蔵されています。須恵器装飾付 甕 など数点ですが、特殊かつ整美なものを含んでいます。

『伊井村誌』には、右上の分布図が掲載され、当時 3 基の円墳が残存していたことがわかります。また、石室を持つ円墳との記載もあり、古墳時代後期の横穴式石室を備えた円墳数基からなる群集墳であったと考えられます。今回展示の伊井小学校に保管されている、昭和 31 年 10 月にこの古墳群から出土と記された須恵器はそれを示していますが、どの古墳から発見されたかまではわかっていません。

<展示品>

- ・土師器・高坏 1 点（伊井小学校所蔵）
- ・加戸山古墳群出土須恵器 5 点（伊井小学校所蔵）
須恵器（短頸壺 1、蓋 1、甕 2、坏身 1）

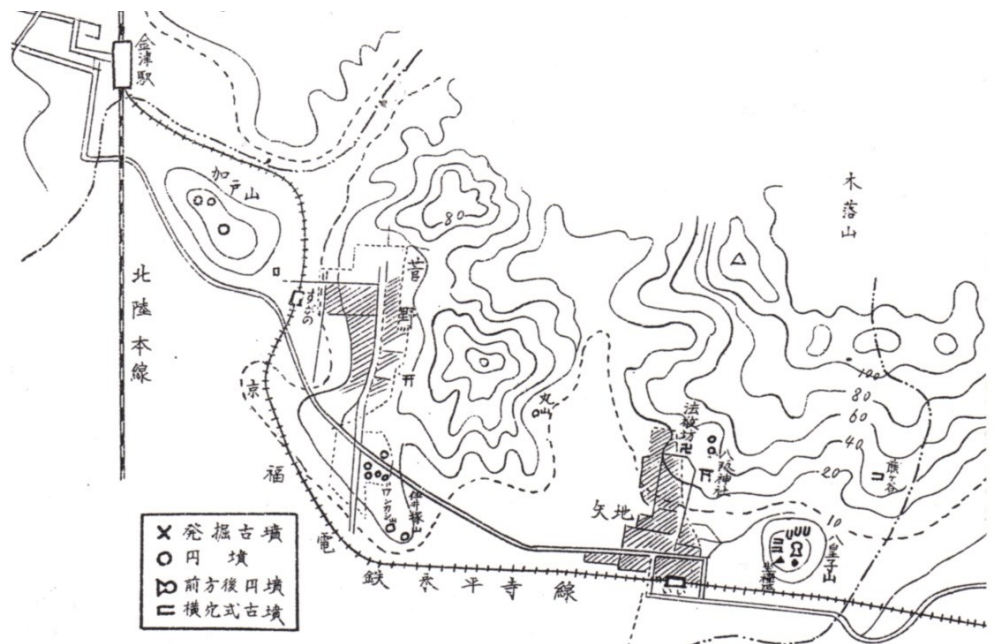


図 5 加戸山及び伊井塚山・八皇子山附近の古墳の分布図
『伊井村誌』より転載

くわばら
【桑原区】
せつかん
石冠

この石冠は、桑原区から単独で採集されたもので、先の伊井区で採集されたものと同様、「老いねずみ」形の一種ですが、伊井のものにくらべ、動物由来とされる痕跡が少なくなっています。これが時期差を示すのかはわかりませんが、やはり縄文時代後期から晩期頃のものと思われます。

ふとがたはまぐりばせき ふ ませい
太型蛤刃石斧（磨製石斧）

これは、昭和26年10月に伊井小学校に寄贈された桑原区採集の大型の磨製石斧です。弥生時代に大陸から伝わった石斧の一種で、刃の部分が口を閉じたはまぐりと似た形をしていることから名付けられました。木を切るために使用されたと考えられています。

はそう
須恵器・甗

この土器は、体部に孔の開いた須恵器であり、甗としていますが、古墳などから出土する甗とは形がかなり異なることから、甗ではない可能性もありますが、ここでは甗として扱っています。なお、発見場所についても伊井小学校展示の見出しを元に桑原区としましたが、確定ではありません。

須恵器・坏身

桑原区延明より昭和27年4月出土と記載された須恵器の無台坏です。発見者は、上記の太型蛤刃石斧と同じですが、発見場所については延明という小字と思われるが、石斧の出土場所との関係は明らかではありません。この土器は、時期的には奈良時代頃のものと思われます。

桑原遺跡

桑原遺跡は、清間集落南東端より竹田川に沿って桑原集落南端まで広がる遺跡で、北西は清間遺跡、南東は古屋石塚北遺跡に接しています。

昭和52年、ほ場整備の前に水路部分を中心に発掘調査が行われ、奈良時代に使用されたとされる井戸跡1基が発見されました。井戸跡は平面径が約2mの円形で、段があり、深さ2mでした。井戸内からは、上から3層と4層の境から奈良時代の須恵器の坏蓋が確認されました。また、さらに下から後に市指定文化財となった木製漆塗椀が発見されています。

この遺跡付近には東大寺領の桑原庄があったと考えられていますが、荘園関係の遺構は確認されていません。また、周辺では縄文時代の石冠も採集されており、古くから人々の生活が行われていたと考えられます。

うるしぬりわん
漆塗椀（市指定文化財・工芸）

この木製の椀は、前述の発掘調査で奈良時代の井戸内から発見されました。大きさは、口径13.5cm、高さ5.8cm、高台径7.8cm、器厚平均約5mmで、使用している木材はとちの木とみられている。底部外面を除く生地の内外に黒漆をかけ、朱でかたばみ形の文様がスタンプによって描かれています。手法的には、中世または近世のものと思われるが、井戸の底部近くから出土している状況から、8世紀後半頃の所産としか考えられないとの所見もあり、時期は特定できていません。

<展示品>

- ・石冠1点（あわら市教育委員会保管）
- ・太型蛤刃石斧1点（伊井小学校所蔵）
- ・須恵器・甗1点（伊井小学校所蔵）
- ・須恵器・坏身1点（伊井小学校所蔵）
- ・桑原遺跡出土木製漆塗椀1点

（市指定文化財（工芸）・あわら市教育委員会所蔵）



図6 桑原遺跡調査
井戸内出土木製漆塗椀（市指定）

ふるやいしづか 【古屋石塚区】

古屋石塚北遺跡は桑原遺跡に接し、竹田川に沿ってその西側の自然堤防上に広がっています。

また、古屋石塚遺跡は古屋石塚北遺跡の南側とつながりますが、古屋石塚集落の北端が両遺跡の境となっています。古屋石塚遺跡の南西端は坂井市坂井町となり、そこは竹田川の支流である田島川の自然堤防上で長屋遺跡と西側が接しています。長屋遺跡の南西には玉造り遺跡として知られる河和田遺跡があり、両河川の自然堤防上にはあわらし稲越から坂井市域まで遺跡が带状に連なっています。

古屋石塚北・古屋石塚遺跡とも発掘調査が行われたことはなく、はっきりとしたことは分かっていません。今回展示しているこの区で採集されている伊井小学校保管資料には、昭和26年9月に竹田川と田島川の合流点である水間付近の基礎工事の際、竹田川底の約1m下方より出土した数点の須恵器があります。左端の1点は、下部を欠くため器種は確定ではないものの、肩部にボタン状の突起があることから横瓶としましたが、平瓶とも考えられます。その右の3点はいずれも奈良時代頃の坏身と思われませんが、3点中の右2点には底部に台が付きますが、左の坏身には台が付いていません。

<展示品>

- ・須恵器4点（伊井小学校所蔵）
須恵器（横瓶1、無台坏1、有台坏2）

たまつく 【伊井地区での玉造り】

この地区において、玉造りを行っていたと確実視されるのは伊井遺跡だけとなっています。隣接する南稲越遺跡や清間遺跡などでも少量の緑色凝灰岩の原石や管玉などが発見されていますが、製作途中のものはほとんど確認されていません。しかし、伊井遺跡でも玉造り関連の資料は、竪穴住居址ではなく、掘立柱建物に復元した範囲内から出ており、片山津玉造遺跡（石川県加賀市）のような確実な工房跡とは区別する必要があります。伊井遺跡で使用している石材は、緑色凝灰岩が大半ですが、乳白色の石材も確認されており、一つの特徴と言えます。ここで玉造りを行っていた時期は古墳時代前期頃が中心と思われませんが、めのう製の石錐らしきものも出ており、鉄製のものは残りにくいため明らかではありませんが、弥生時代末期に一部で玉造りが行われていた可能性も想定されます。

片山津玉造遺跡では、弥生時代以来の伝統とは異なる「加賀技法」と呼ばれる新たな製作方法が用いられていますが、伊井遺跡ではその技法が使われた資料は確認されていません。そのため、伊井遺跡では片山津玉造遺跡よりもやや古い時代に玉造りが行われており、新たな製作方法が伝わる前に生産が行われなくなっていたのかも知れません。

展示しているのは、南稲越遺跡の2次調査で発見された緑色凝灰岩の原石以外は伊井遺跡第1調査で出土したもので、管玉の製作工程順に並べています。砥石には良く見ると筋のようなものがあり、これが管玉を研磨した跡と思われます。勾玉や小玉は、ごく少量しか見つかりません。他に石製腕飾類と呼ばれる車輪石と石釧の破片が発見されていることに注目されましたが、生産していた形跡は見られませんでした。

<展示品>

- ・南稲越遺跡第2次調査出土・緑色凝灰岩原石1点（あわらし教育委員会所蔵）
- ・伊井遺跡第1次調査出土・管玉未成品22点・同管玉3点（あわらし教育委員会所蔵）
（荒割品3、形割品5、角柱状未成品12、八角柱状未成品2、管玉3）
- ・伊井遺跡第1次調査出土・砥石1点（あわらし教育委員会所蔵）
- ・伊井遺跡第1次調査出土・勾玉、小玉（あわらし教育委員会所蔵）
（勾玉3、小玉3）
- ・伊井遺跡第1次調査出土・石製腕飾類未成品2点（あわらし教育委員会所蔵）
（車輪石片1・石釧片1）

かたやまづたまつくりいせき か が し
【片山津玉造遺跡 (石川県加賀市)】

この遺跡は、柴山瀉の南西隅にある片山津温泉の南方約1キロ、片山津町西側の標高20~30mの台地上にあります。昭和30年代に3次にわたって発掘調査が行われ、4世紀後半から5世紀前半頃の玉造り遺跡であったことがわかりました。右図7の住居址番号中、23・24・28・30・33・34・39の7基については縄文時代中期の住居跡、9・22・40の3基は玉造り以外の住居跡と考えられていますが、それ以外の大半の竪穴住居址内で玉造り用の特殊な孔や製作途中の玉が見つかっています。ここで作られていたのは、ほとんどが管玉であり、発見された点数は数千個にもおよびますが、大半が製作途中のものでした。製作は、採石→荒割→形割→側面打裂→研磨→穿孔→仕上げの過程となります。

他に勾玉、白玉などもありますが、ごくわずかです。これは伊井遺跡でもほぼ同様ですが、規模の面ではかなりの差があります。

玉類以外では石製品の製作途中のもので、紡錘車の未成品とも考えられる円板状石や笠形石、石釧や車輪石の未成品ともみられる亀の甲羅状の亀甲状石があり、この点では伊井遺跡とも共通しています。

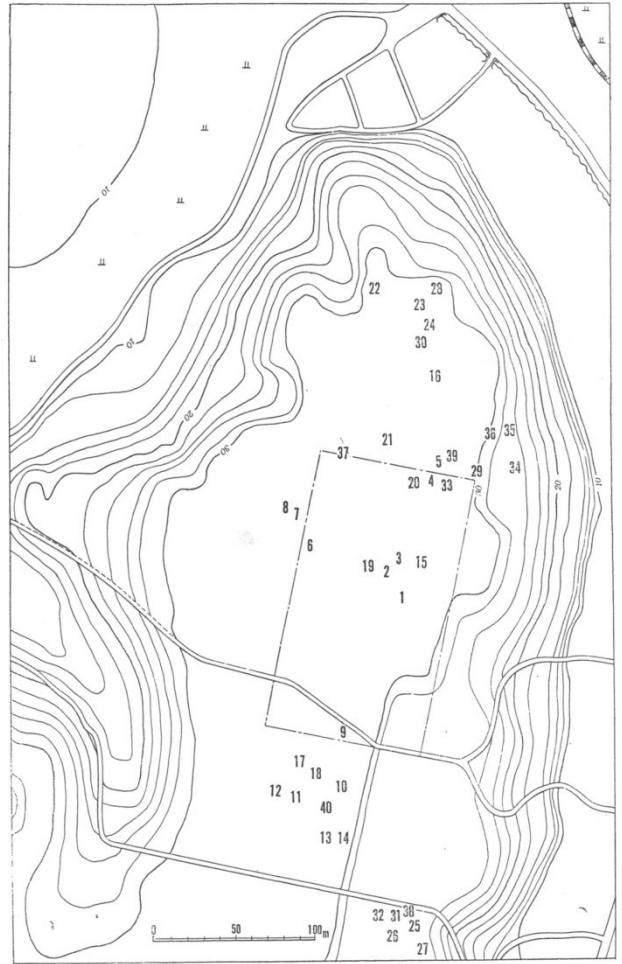


図7 遺跡の地形及び住居址の分布
『加賀片山津玉造遺跡の研究』第1図転載

<展示品>

- ・片山津玉造遺跡出土・緑色凝灰岩原石2点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)
- ・片山津玉造遺跡・管玉未成品22点・同管玉3点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)
(形割工程品1、側面打裂工程3、研磨工程品5、穿孔工程品4、管玉2)
- ・片山津玉造遺跡出土・砥石4点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)
- ・片山津玉造遺跡出土・亀甲状石2点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)
- ・片山津玉造遺跡出土・円板状石2点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)
- ・片山津玉造遺跡出土・笠形石3点 (石川県加賀市教育委員会所蔵)

会 期：9月12日(火)～12月3日(日)

開館時間：9：30～18：00

(最終入館は17：30)

休館日：毎週月曜日、第四木曜日

(その日が祝日の場合はその翌日)

お問合せ：電話：0776-73-5158

e-mail maibun@city.awara.lg.jp

平成29年度秋季企画展関連講座

「加賀の玉造りについて」

講師：戸根 比呂子 氏

(加賀市教育委員会)

日程：11月12日(日)13：30～

場所：市民文化研修センター 研修室1

(金津本陣 IKOSSA 3階)

対象：一般30人(事前申込不要、無料)